

# 伝え合う力を高める授業づくり

## —国語科における「習得」・「活用」を中心に—

教育実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域  
大山 沙織

### 1 はじめに

連携協力校である瀬戸市の小学校において、2012年9月より約1年6ヶ月の学校サポーター活動と2013年6月、9月と各1ヶ月間ずつの教師力向上実習Ⅰ・Ⅱを実施させていただいた。教師力向上実習Ⅰ・Ⅱにおいては、「伝え合う力」を高める授業づくりを目指し、国語科や学級活動における言語活動（書く・聞く・話す活動など）を中心に実践を行った。

本報告では、「話す」「書く」「聞く」というそれぞれの基本的な能力の「習得」・「活用」を通して「伝え合う力」を高めるための手だてとその成果と課題を中心に報告していく。

### 2 主題設定の理由

#### (1) 今日の教育課題から

##### ①なぜ「伝え合う力」が求められるのか

近年、グローバル化が進み、人間関係の中でコミュニケーション能力がますます必要となってきた。

平成17年中教審「我が国の高等教育の将来像」によると、以下のように述べられている。

国内・国際社会ともに一層流動的で複雑化した先行き不透明な時代を迎える中、相互の信頼と共生を支える基盤として、他者の歴史・文化・宗教・風俗習慣等を理解・尊重し、他者と積極的にコミュニケーションをとることのできる力がより重要となってくる。

このことから、コミュニケーションのできる力としての言語力の充実が必須の課題であることが分かる。ここでの、コミュニケーションをとることができる力とは、自分の思いを相手にわかりやすく表現したり、相手の考えや意図を理解したりする力である「伝え合う力」のことである。

また、平成19年度の文部科学白書<sup>(1)</sup>によると、道徳教育の充実に関して、「児童生徒が互いの考えや気持ちを伝え合う力を高め、生活上の問題を言葉で解決する力を育てるとともに、相互理解や望ましい人間関係づくりを進めるためのカリキュラムなどの在り方について実践研究をしている」と記載がある。このことから、「伝え合う力」が重視されていることが分かる。

これらの背景から、「小学校学習指導要領国語科」の目標として、次のような表記がある。

国語科を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、**伝え合う力を高める**とともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

これから求められる学力として、コミュニケーション能力（伝え合う力）の育成があり、他教科ももちろんであるが、国語科を中心にこれらを育てていく必要がある。

##### ②「習得」・「活用」が重視される背景とは

全国学力調査B問題(文部科学省)、PISA調査(2003及び2006)の結果によると、我が国の子どもは、知識・技能など既習事項を生活上の諸問題の解決に活用する力に課題のあることが浮き彫りになった<sup>(2)</sup>。

また、学校教育法第30条第2項では、次のように表記されている。

・・・前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

このことから、思考力・判断力・表現力等を育成する必要があることが分かる。

また、この内容から、留意しなければならない学力の重要な3つの要素が次のように示されている。

- ア 基礎的・基本的な知識・技能
- イ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ウ 主体的に学習に取り組む態度

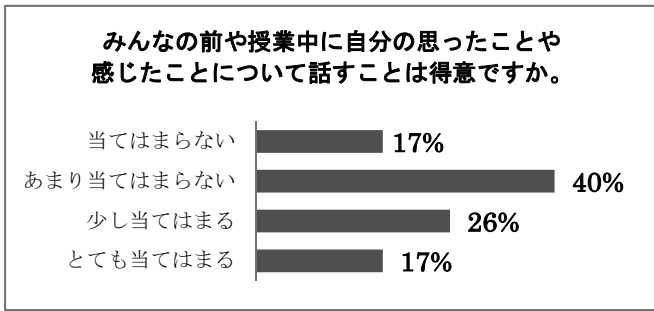
このように、思考力・判断力・表現力等を育成するための手段として、「習得」した知識・技能を使ったり、考えたりする「活用」が求められているのである。

#### (2) 本学級の児童の実態から

教師力向上実習Ⅰ・Ⅱは、5年生（男子20名、女子17名）で実践をさせていただいた。

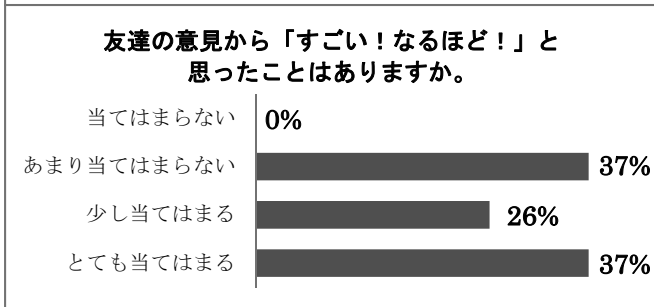
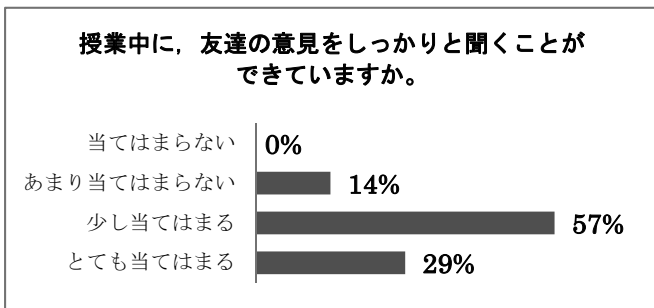
教師力向上実習Ⅰの前に事前アンケートとして学級の児童（37名）に回答させたり、学級の様子を観察したりしたところ、次の傾向があることが分かった。

①みんなの前や授業中に自分の思ったことや感じたことについて話すことが苦手であると感じている児童が半数以上いる（図1）。



【図1 話すことに関するアンケート結果】

②友達の話をしっかりと聞くことができるにも関わらず、友達の意見の中から「なるほど！すごい！」と思う児童は少ない（図2）。



【図2 聞くことに関するアンケート結果】

③自分の思いを言葉で適切に伝えることが苦手である児童もいる。（児童の様子の観察から）

①②③の結果から、基本的な「話す」「書く」といった自分の思いや考えを表現することに苦手意識がある児童が多いことが分かった。

また、児童は友達の話を聞くことができていると感じているものの、友達の考えから「なるほど！すごい！」と感じる児童はそれほど多くはないことも分かった。

そうした児童の中にはただ話を聞き流しているだけで、傾聴の姿勢をもって友達の話を聞き、自分なりに友達の考えを理解し、その内容から新たな考えをもつことができているのではないかと考えた。

伝え合う力を高めるためには、「話す」「書く」「聞く」といった基本的な知識や技能の「習得」が、まず必要である。そして、「習得」した知識や技能を用いて伝え合う場を多く設けることで「伝え合う力」が高まると考える。

### 3 主題に関わる基本的な考え方

#### (1) 「伝え合う力」の定義

「小学校学習指導要領解説国語編」では、「伝え合う力」とは、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり理解したりする力」のことであると定義されている。

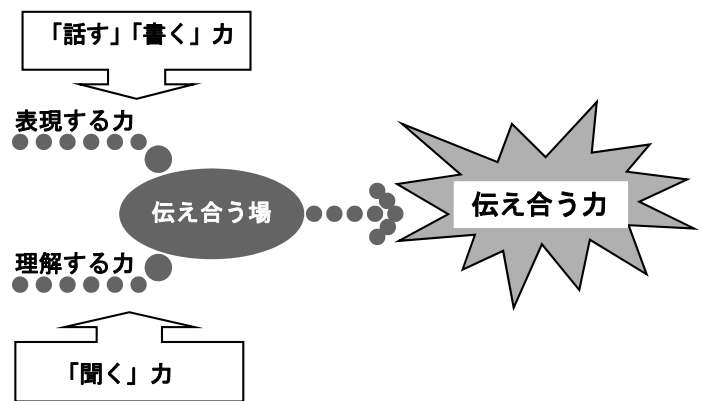
ここで表現とは、「話す」「書く」力のことであり、理解とは「聞く」力のことである。

言語を通して適切に表現したり理解したりするためには、小学校学習指導要領（2008）の第5学年及び第6学年の目標「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる」にあるように「話す力」や「聞く力」の育成が不可欠である。

「話す力」とは、自分の考えや伝えたいことを相手に分かりやすく論理的に話すことができる力のことであり、この「話す力」の基盤となるのが、「書く力」である。正しい文章の書き方や展開の仕方を児童に理解させることで、論理的な文章表現を習得させることができる。こうした「書く力」が「話す力」の向上へとつながるのであると考える。

「聞く力」とは、相手の考えを傾聴の姿勢をもって聞くことができる力のことである。ただ単に話を聞き流すのではなく、新たな考えから視野を広げたり、自分の考えと比べたりすることができるように「聞く力」を身に付けさせることが大切である。

こうした「話す力」と「聞く力」の基礎を習得させ、伝え合う場において活用させることが「伝え合う力」を高めることにつながるのではあると考える（図3）。



【図3 伝え合う力を育成するためには】

#### (2) 「習得」・「活用」とは

「習得」とは、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることである。本実践では、話す力や聞く力の「習得」を次のように考える。

- ① 相手に分かりやすく論理的に「話す力」の基礎・基本となる知識や技能を身に付けること
- ② 相手の話に傾聴の姿勢をもって「聞く力」の基礎・基本となる知識や技能を身に付けること

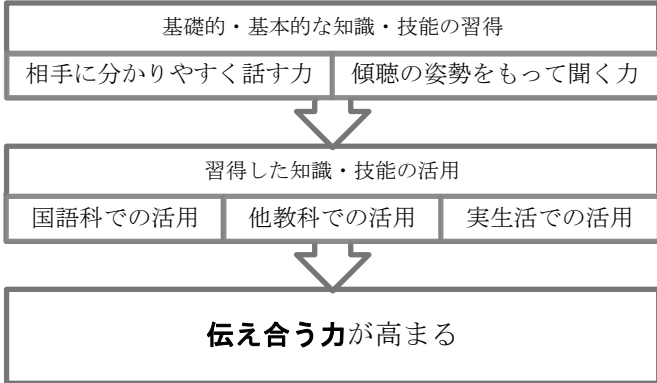
一方、「活用」とは、「習得」した「話す力」や「聞く力」を用いて学習内容を深めることである。本実践では、伝え合う力を高めるために「活用」を次のように考える。

「習得」した「話す力」や「聞く力」を用いて、論理的に伝え合うこと

また、大熊<sup>(3)</sup>は、国語科における「習得」と「活用」の関係について次の三つを示している。

- 一 国語科学習で習得した基礎的・基本的な知識・技能等を実生活（日常生活）で「活用」する
- 二 国語科学習で習得した基礎的・基本的な知識・技能等を国語科学習で「活用」する
- 三 国語科学習で習得した基礎的・基本的な知識・技能等を他教科等の学習に「活用」する

すなわち、国語科において「習得」した基礎的・基本的な知識・技能は、国語科学習において「活用」することができるのはもちろん、他教科や実生活（日常生活）でも「活用」することによってさらに「伝え合う力」が高まると考える（図4）。



【図4 「習得」「活用」による伝え合う力の育成】

#### 4 研究の構想・目的・方法

##### (1) 研究の構想と目的

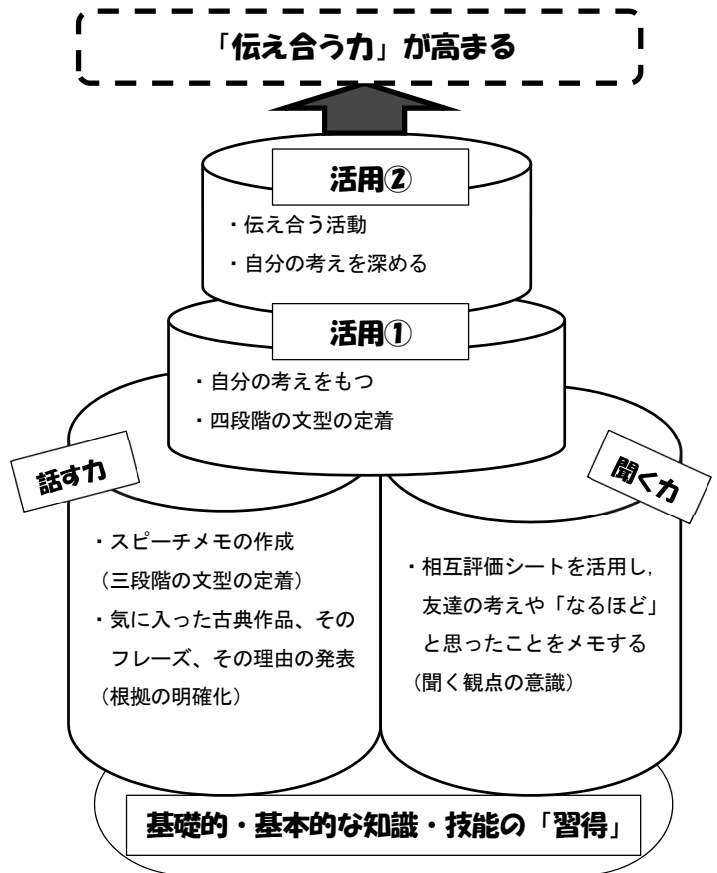
本研究では、「伝え合う力」を高めることを目指して「習得」と「活用」の段階を設定した。それぞれの手だてを工夫することで「伝え合う力」を高める授業づくりに取り組んだ。

「伝え合う力」を高めるために、教師力向上実習Ⅰでは、「話す力」（簡単な文型の定着、根拠の明確化）や「聞く力」（聞く観点の意識）などの基礎的・基本的な知識・技能の「習得」を中心に実践を進めた。

そして、教師力向上実習Ⅱでは、教師力向上実習Ⅰで「習得」した内容を「活用」する場面を設定した。

その中で、「活用」を「活用①」と「活用②」と二段階とした。「活用①」では、伝え合う前に自分の考えをもち、論理的に表現する学習を行った。そして、「活

用②」では、話し合い活動を行ったり、友達の考えからの学びをワークシートにまとめさせたりした（図5）。



【図5 研究構想図】

##### (2) 目指す児童像

伝え合う力が育った児童の姿を、以下のように話す力・聞く力の観点の両面から設定をした。

- i 自分の思いや考えを相手に分かりやすく論理的に表現することができる児童（話す力）
- ii 相手の意見に傾聴の姿勢をもち、新たな視野を広げたり、自分の考えと比べたりしながら聞くことができる児童（聞く力）

##### (3) 研究の仮説

目指す児童像にせまるため、以下の仮説を設定した。

- I 基本的な文章の組み立てや構成を「習得」させ、伝え合う場において「活用」することを積み重ねれば、自信をもって論理的に表現する力が身に付くであろう。
- II 伝え合う場において、相手の意見を意識して聞くことができるような手だてを用いれば、相手の意見に対して傾聴の姿勢をもち、新たな視野を広げることができるであろう。

#### (4) 研究の計画

本研究では、次のように研究を進めていく。

教師力向上実習Ⅰでは、国語科「今も 昔も」と学級活動「スピーチ活動」において「話す力」「聞く力」の「習得」を中心に行う。

そして、教師力向上実習Ⅱでは、国語科「豊かな言葉の使い手になるためには」において、自分の考えをもつ段階としての「活用①」と伝え合う場の設定と新たな視点をもつ段階としての「活用②」として実践を行う（表1）。

【表1 研究の計画】

	実習内容	段階	話す力・聞く力を育てるための手だて 話：話す力 聞：聞く力
教師力向上実習Ⅰ	<国語科> ◎今も 昔も  <学級活動> ◎スピーチ活動	習得	話：根拠とともに、自分の考えを述べさせる。 聞：話を適切に聞くための観点について意識させる。  話：「はじめ」「なか」「おわり」といった三段階の簡単な文型を身に付けさせる。 聞：スピーチを相互評価しながら発表し合わせる。
	<国語科> ◎豊かな言葉の使い手になるためには	活用①   活用②	活用① 話：自分の考えをもち、分かりやすくまとめるために四段階で構成された文型を身に付けさせる。  活用② 話：伝え合う場を設定する。 話：新たな自分の考えをまとめることができるワークシートを活用する。 聞：聞き役をつくる。 聞：伝え合いの場において、相手の考えや「なるほど」と思った点をメモさせる。
教師力向上実習Ⅱ			

#### 5 教師力向上実習Ⅰにおける実践

##### 国語科「今も 昔も」における実践

##### (1) 授業内容とそのねらい

本単元は、三つの古典作品「竹取物語・枕草子・平家物語」の音読から、言葉の響きやリズムのおもしろさを体感することを目的としている。

今回は、その目的を達成し、さらに児童の「伝え合う力」を高めるために、三つの古典作品の中から自分の気に入った作品についてグループで発表し合う場を設けた。

本実践では、基礎的・基本的な知識・技能を習得させることで、「相手に分かりやすく伝える話す力」と「相手の考えを傾聴の姿勢をもって聞く力」をもたせることを一番ねらいとして実践を進めた。

##### (2) 実践内容とその考察

##### ① 「話す力」を高めるための手だてについて

##### 手だて① 発表原稿の作成

グループで自分の考えを伝え合う前に発表原稿を作成する。発表原稿には、三つの古典作品の中から選んだ古典作品の名前・好きなフレーズ・気に入った理由をそれぞれ記入する。

相手に自分の考えをより分かりやすく伝えるためには、具体的な内容とその根拠が必要である。それらの項目をワークシートに示し、児童に書かせることで自信をもって、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる「話す力」を養っていくことにした。

##### <授業の実際>

発表原稿をもとに、児童は古典の暗唱と自分の考えを発表した。発表原稿には、ほぼ全員の児童が理由とともに、自分の気に入った古典作品を記入することができた。理由としては、古典作品のリズムや響きが入ったという意見や場面の様子を思い浮かべたときにきれいだと思ったという意見などが多く記入されていた。児童の記入例は資料1の通りである。

##### 【資料1 児童のワークシートの記述】

わたしのお気に入りの作品は、  
**枕草子**です。

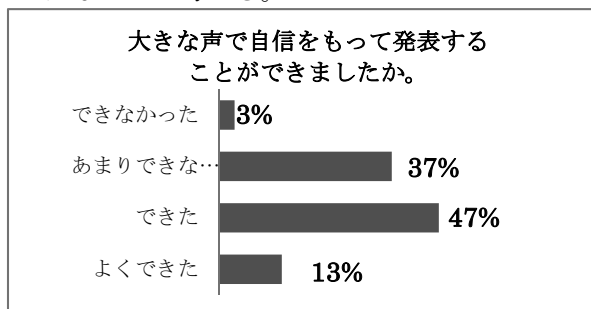
その中のお気に入りのフレーズは、  
夏は夜。月のころはさらなり。  
やみもなお、蛍の多く飛び  
ちがひたる

《好きな理由を書いてみよう》  
なぜなら、季節の中で夏が一番好きだからということとこの文を想像してみると月のまわりで蛍が多く飛んでいるのが美しいと思ったからです。

尚、明朝体はワークシートの記述でゴシック体は児童の記述を表す。

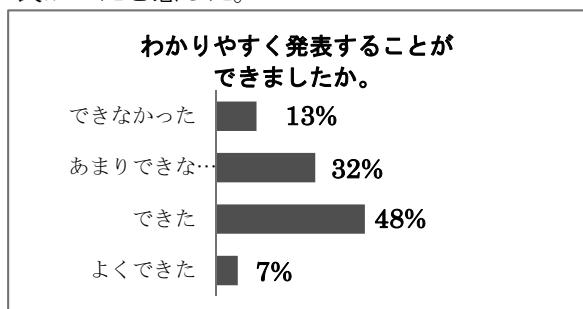
**<成果と課題> ◎：成果 △：課題**

◎ 事後のアンケートの「大きな声で自信をもって発表できましたか。」の問いに対して「よくできた」「できた」と6割の児童が回答することができた。事前アンケートの結果と比べると僅かであるが上昇した(図1・図6)。発表原稿を作成することで、自信をもって発表することができたのではないかと考える。



【図6 自信をもって発表できたかという事後アンケート】

△ 同じ事後アンケートの「わかりやすく発表することができましたか。」の問いでは、「よくできた」「できた」と回答した児童が半数程度にとどまった。さらに「できなかった」と回答した児童が13%も出てしまった(図7)。原因としては、ワークシートの記述欄を自由に記入させてしまったこともあると考える。分かりやすく伝えるための正しい文章構成を理解するために、あらかじめ使うと良い言葉をワークシートに載せておくと良かったと感じた。



【図7 分かりやすく発表できたかという事後アンケート】

△ 気に入ったフレーズの理由を記入する欄では、一部の児童はあまり思いつかず、「なんとなく」と書いた児童もいた。理由の書き方もあらかじめ提示すると良かったと考える。

**② 「聞く力」を高めるための手だてについて**

**手だて② 「なるほどメモ」の活用**

友達の考えで「すごい！なるほど」と思った点を書くことができるワークシートを使用する(資料2)。

友達の考えを聞いて新たな視野を広げたり、自分の

考えと比べて考えを深めたりするためには、児童の自ら友達の考えから学ぼうという意識が大切である。こうした意識をもたせるためには、ただ友達の考えを聞き流すのではなく、「なるほど」と思った点をメモしたり、良い意見をメモしたりする機会を設けることが必要であると考えた。そこで、なるほどメモを活用して、児童自身が互いの考えを意識しながら「聞く力」を養っていくことにした。

**<授業の実際>**

好きな古典作品について発表し合う際に、グループのメンバーの名前をそれぞれ書き、自分になかった視点や「すごい！なるほど！」と思ったことを記入できるワークシートを活用させることにした。

多くの児童がグループの友達の良いところを探そうとしており、あまり戸惑うことなく、ワークシートの欄に記入することができた。

**<成果と課題>**

◎ 児童の中には、「そのような視点があった」と新たな発見をしたという記述があった。

△ 友達の発表の仕方の良いところ(大きな声で、分かりやすくなど)に着目しすぎてしまい、発表の内容から「すごい！なるほど！」と思うことができたという記述が少なかった。あらかじめ詳しく説明をしたり、例文を示したりする必要があった。

**【資料2 なるほどメモ】**

	1	2	3
↓下に友達の名前を書こう！	大きな声で自信をもって発表することができましたか。	リスム良く言談することができましたか。	自分になかった視点や、すごい！なるほど！と思ったことを書きましょう。

ひょうかほ、即段階です！  
 ☆：よくできています (とてもしやすかった) ◎：できています (しやすかった) ○：あとちょっとです (あまりしやすくなかった) △：もっとがんばろう。(しやすくなかった) ..

**学級活動「スピーチ活動」における実践**

**(1) 授業内容とそのねらい**

児童が論理的な話し方を身に付けるためには、正しい文章構成を「習得」することが大切である。

そこで、スピーチ活動の実践では、論理的で分かりやすい文章の組み立てを児童に定着させ、自信をもって発表させることを一番のねらいとした。

本実践では、自由なテーマ(将来の夢・宝物・好き

なものなど)を決めさせ、グループでスピーチ活動を行わせた。

**(2) 実践内容とその考察**

**① 「話す力」を高めるための手だてについて**

**手だて③ 「スピーチメモ」の作成**

スピーチ活動を行う前に、児童にスピーチメモを作成させる(資料3)。スピーチメモには、「はじめ」「なか1・2」「まとめ」の三段階に分けて記入させる。「はじめ」ではスピーチで話すことの説明を、「なか1・2」では具体例を、「まとめ」では自分の考えを書かせ、児童に正しい文章構成を習得させる。そして、この原稿をもとにスピーチ活動を行わせる。

自分の考えを相手に分かりやすく伝えるためには、論理的な話し方を身に付けることが大切である。

そこで、本実践ではスピーチメモを活用し、「はじめ」「なか1・2」「まとめ」の三段階の文章構成を児童に習得させることで、児童が相手に伝わりやすい話し方を身に付け、自分の話し方に自信をもって「話す力」を養っていくことにした。

**【資料3 スピーチメモ】**

まとめ	なか2	なか1	はじめ	構成 説明 書き 方の ポイント	
自分の考え	具体例②	具体例①	スピーチで話すことの説明		
<p>私は、野球の試合を観るのことが大好きです。特に、プロ野球の試合を観るのが大好きです。試合を観る時は、選手たちの活躍や、試合の行方などに注目しています。また、応援もとても楽しいです。野球は、チームワークや、戦略が大切だと思います。これからも、野球を通じて、仲間と協力し、成長していきたいです。</p>	<p>野球の試合を観るのことが大好きです。特に、プロ野球の試合を観るのが大好きです。試合を観る時は、選手たちの活躍や、試合の行方などに注目しています。また、応援もとても楽しいです。野球は、チームワークや、戦略が大切だと思います。これからも、野球を通じて、仲間と協力し、成長していきたいです。</p>	<p>私は、野球の試合を観るのことが大好きです。特に、プロ野球の試合を観るのが大好きです。試合を観る時は、選手たちの活躍や、試合の行方などに注目しています。また、応援もとても楽しいです。野球は、チームワークや、戦略が大切だと思います。これからも、野球を通じて、仲間と協力し、成長していきたいです。</p>	<p>私は、野球の試合を観るのことが大好きです。特に、プロ野球の試合を観るのが大好きです。試合を観る時は、選手たちの活躍や、試合の行方などに注目しています。また、応援もとても楽しいです。野球は、チームワークや、戦略が大切だと思います。これからも、野球を通じて、仲間と協力し、成長していきたいです。</p>	<p>スピーチで話すときは、大きな声で自信をもって話すことが大切です。また、相手の話をよく聞き、相手の話を尊重することが大切です。話し手と聞き手とのコミュニケーションが大切だと思います。</p>	
			わたしは、 ぼくは、 について話します。		

**<授業の実際>**

ほぼ全員が、三段階の文章構成に当てはめてスピーチメモを作成し、それをもとに発表することができた。

事前アンケートにおいて「書くこと」や「話すこと」が得意であると回答した児童はもちろん、苦手であると回答した児童も論理的に書くことができていた。以下が、「書くこと」と「話すこと」が特に苦手であると回答した児童(以降A)の記述である。(資料4)

また、Aは、事後アンケートにおいて「大きな声で自信をもってスピーチができましたか。」や「メモを作成したことでスピーチしやすかったですか。」の問いに対して、いずれも「よくできた(とてもしやすかった)」と回答することができた。さらに、一言の感想では、「とてもスピーチがしやすかった!! 楽しかった!!」と記入をしていた。

**【資料4 「書くこと」「話すこと」が苦手だと回答した児童Aのスピーチメモ】**

ぼくは、「野球」について話します。  
ぼくがやっている野球のチーム名は、●●●です。  
ぼくがやっているしゅびは6年と  
いっしょだとライトカレフトでぼ  
くたちの学年では、ピッチャーです。  
もうすぐぼくたちの学年の大会が  
あるのが楽しみです。

**<成果と課題>**

- ◎ 事後のアンケートで「大きな声で自信をもってスピーチができましたか。」という問いに対して、80%の児童が「よくできた」「できた」と回答することができた。
- ◎ 事後のアンケートで「メモを作成したことでスピーチしやすかったですか。」という問いに対して89%の児童が「とてもしやすかった」「しやすかった」と回答することができた。

△ 事後のアンケートで「楽しくスピーチをすることができましたか。」という問いに対して約3割の児童が「あまりできなかった」と回答した。児童が楽しく話せるような工夫が足りなかったと考えられる。



**【写真1 スピーチ活動を行う児童の様子】**

**② 「聞く力」を高めるための手だてについて**

**手だて④ 聞く観点をもつ相互評価シートの活用**

互いのスピーチを聞き合う際に、「大きな声で自信をもって発表できていたか」「分かりやすくスピーチができていたか」「友達の話を聞いて『なるほど』と思ったことがあったか」という三つの観点を示し、児童にそれらの点を、意識させながら友達の発表を聞くようにさせる。

児童の中には、友達の話を聞くときにどのようなことに注意して聞けば良いのか分からない児童もいる。そこで、本実践では友達の考えの良いところや「なるほど」と思う点を見つけ出させたいと思い、これらの項目を設定したワークシートを活用した。

**<授業の実際>**

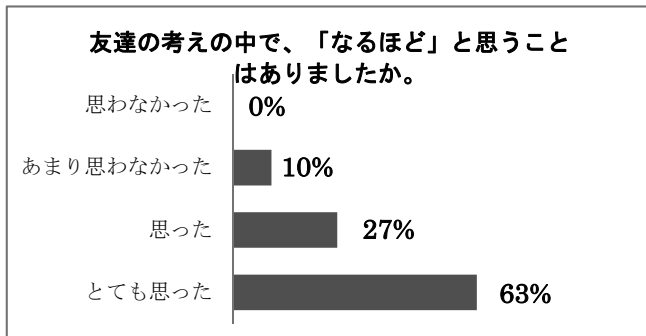
グループの友達の名前を記入し、それぞれを項目ご

とに四段階で相互評価させることにした。

ほとんどの児童がその項目に記入することができたことから、意識しながら友達の発表を聞くことができていたのではないかと考える。そして、その欄を見ていると、ポジティブな評価が多く、温かい視点で互いの発表を聞くことができていた。

### <成果と課題>

◎ アンケートをとったところ、「友達の考えの中で、『なるほど』と思うことはありましたか。」という質問に対して9割の児童が「とても思った」「思った」と回答することができた(図8)。「なるほど」ということを見つけるという聞く観点を与えたことが、この結果につながると考えられる。



【図8 友達の考えから「なるほど」と思うことがあったかというアンケート結果】

△ 1割の児童は友達の考えから「なるほど」ということを見つけることができなかった。ただ聞くだけでなく、友達の考えをメモしながら聞くことでより友達の意見を理解することができ、新たな発見をすることができるのではないかと考える。

## 6 教師力向上実習Ⅱにおける実践

### 国語科「豊かな言葉の使い手になるためには」における実践

#### (1) 実践の内容とそのねらい

「豊かな言葉の使い手になるためには」という単元ではテーマに対して自分の考えをもった上で討論を行い、他者と意見を交流することで自分の考えを深めていくことをねらいとしている。

本実践では、自分なりに考えをもち、論理的で分かりやすく伝える力を身に付させる。(活用1)

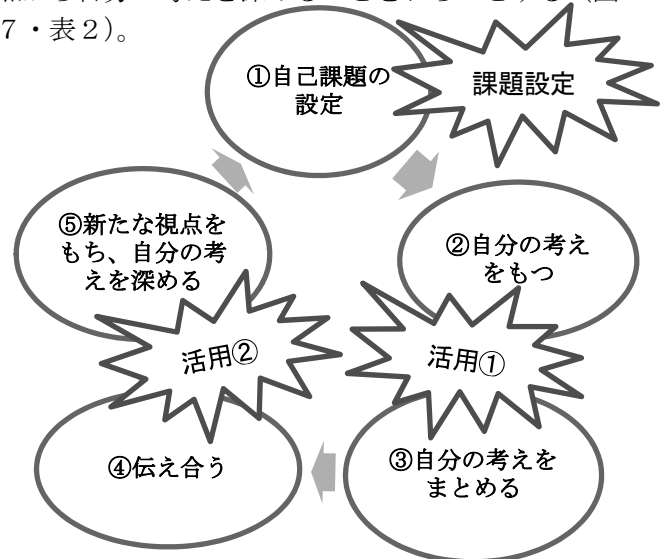
そして、話し合いの場で習得したことを活用し、自分の考えを深める。(活用2)

これらを通して、児童の「伝え合う力」が高まることを目指した。

#### (2) 単元構想

本単元(14時間完了)では、「課題設定」「活用①」

「活用②」という3段階に分けて授業を進めていくことにした。「課題設定」では、調べたことをもとに自分の課題を決める。つぎに「活用①」では、自分の考えをもち、それを論理的にまとめることをねらいとする。そして「活用②」では、伝え合う場を設け、新たな視点から自分の考えを深めることをねらいとする(図7・表2)。



【図7「豊かな言葉の使い手になるためには」の大まかな流れ】

【表2 各段階の内容】

段階	実践の内容(◎=内容、★=話し合いの場)
課題設定	<p>①自己課題の設定(第1次~第3次)</p> <p>◎「豊かな言葉の使い手」になるための自分の考えをもち。</p> <p>★「豊かな言葉の使い手」だと考える職業とその理由・「言葉の使い手」になるためにはどのような課題があるかを考え、グループで話し合いをする。</p>
活用①	<p>②自分の考えをもつ(第4次~第6次)</p> <p>◎「豊かな言葉の使い手」になるための自己課題を各自調べ、それに対して自分の考えをもち。</p> <p>③自分の考えをまとめる(第7次~第8次)</p> <p>◎自分の考えを相手に論理的に分かりやすく伝えるために組み立てメモを作成する。話し合いをする上で、この組み立てメモを自分の考えとして活用する。</p> <p>★グループで組み立てメモを発表し合い、友達の考えや「なるほど」と思ったことをメモする。</p>
活用②	<p>④伝え合う場の設定(第9次~第13次)</p> <p>★討論の進め方やメモの取り方を事前に学び、司会・聞き役・タイムキーパーなどをグループの中で決め、意見や質問をしながら話し合い</p>





することが大切である。そこで、ただ聞き流すのではなくメモをすることで相手の考えをしっかりと理解させた上で、話し合いに参加し自分の考えを深めさせる。

### <授業の実際>

メモをとることで、友達が意見を発表する際には、しっかりと話を聞こうという姿勢が見られた。記入したワークシートを見みると、多くの児童が文章ではなく、キーワードを拾ってメモすることができていた。



【写真2 メモをとる児童の様子】

### <成果と課題>

- ◎ ほとんどの児童が、友達の考えをキーワードをうまく拾いながらメモすることができていた。そのため、質問や意見を発表する際も、そのメモした内容をもとに「〇さんは～と言ったけれど・・・」と話すことができた児童もいた。
- △ メモをとることに夢中になりすぎ、あまり顔を挙げて話し合いに参加することができない児童もいた。傾聴の姿勢をもって、話し合いをするためにも、聞く姿勢を整えることも大切であると感じた。

### ③ 「伝え合う力」を高める手だてについて

#### 手だて③ 発見シートの活用

伝え合う場でとったメモをもとに、友達の考えから学んだことを記入できる発見シートを活用する。それを組み立てメモに書き入れ、新たな自分の考えをまとめ、明らかにする。

はじめの考えと新たな考えを書き記すことで、児童自身に話し合いでの学びを実感させる。そうすることで、友達の意見交換をしたり、話し合いをしたりすることで視野が広がり、自分の考えが深まるのだということに気付かせる。

### <授業の実際>

ほとんどの児童が話し合い中にメモをとれていたことから、スムーズに新たな学びを発見シートに書き込むことができた。各自、話し合いを通して、新たな考えをもつことができていたようであった。

### <成果と課題>

- ◎ ほとんどの児童が発見シートに書き込みきることができた。事前アンケートで「友達の考えに対して『なるほど』と感じたことはありますか」という質問に対

して「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童Cも以下のようにしっかりと書くことができた（資料6）。

### 【資料6 事前アンケートで『なるほど』と思っ ことがないと回答した児童Cの発見シート】

わたしは、豊かな言葉の使い手とは、  
「相手に伝えるとき正しい言葉が使えるよう」な  
人だと考えていました。

しかし、今回の討論を通して、  
「はっきりした声で話すよう」な人も豊かな言葉  
の使い手であると思うようになりました。

これから、豊かな言葉の使い手になるために、  
「相手と話すときに正確で何が言いたいのかを  
はっきり」していくことに加え、  
「人が言ったことと関係していることを話すこ  
と」もしていきたいです。

明朝体はワークシートの記述でゴシック体は  
児童の記述を表す。

- △ 発見シートに記入した新たな学びに関しては、発表し合うことなく、書いて終わりとなってしまった。さらに、これをグループで発表し合うことで、学びをさらに実感できたのではないかと感じた。

#### 手だて④ 「聞き役」をつくる

伝え合う場では、話し合いに参加せず、グループの話し合いの様子を見る「聞き役」をつくる。

話し合いに参加せず、自分の考えを発表しないことで、聞くことに集中させ、考えをメモさせる。そうすることで、友達の考えの良さに改めて気づくことができるようにする。

### <授業の実際>

6人グループで話し合いの場を設けたが、そのうち2人の児童を「聞き役」とした。話し合い後に、「聞き役」の児童と話をしたところ、「友達のこういう意見が良いと思った」「自分ならこう話した」という話が多く出てきた。

### <成果と課題>

- ◎ 児童のメモしたワークシートを見ると、話し合いの中身（内容）だけでなく話し合いの様子（質問の仕方、進め方や活発にできていたかなど）に関することにも第三者の立場で見ることができていた。
- △ 児童の中には、「聞き役」の意図が分かっておらず、表面的なことしかワークシートに記入できない児童もいた。あらかじめ、説明の中で明確な聞く視点を与えておく必要があった。

## 7 研究の成果と今後の課題

### (1) 成果

- ①基本的な文章の組み立てや構成を「習得」するためのスピーチメモや組み立てメモを用いることで、「みんなの前や授業中に発表することが得意ですか。」という事前アンケートでは、「とても当てはまる」「当てはまる」を合わせて43%の児童が回答したが、「大きな声で自信をもって発表することができましたか。」という事後アンケートでは、「とても当てはまる」「当てはまる」を合わせて93%の児童が回答することができた。発表の中身も、論理的で分かりやすいものがほとんどであった。
- ②「友達の意見から『なるほど』と思ったことはありますか。」という事前アンケートでは、「とても当てはまる」「当てはまる」を合わせて60%程度の児童が回答したが、話し合い後の「友達の考えの中で、『なるほど』と思うことはありましたか。」という事後アンケートでは「とても当てはまる」「当てはまる」を合わせて90%の児童が回答することができた。また、児童が友達の考えをメモしたり、良い意見をメモしたりすることで、傾聴の姿勢をもって友達の話を聞くことができた。
- ③「話す力」や「聞く力」を「習得」し、伝え合う場を設けることで、友達の考えと比べて意見を述べたり、話し合いを通しての自身の学びを明確にしたりすることができるようになった児童も多くおり、「伝え合う力」が高まったと言えるであろう。

### (2) 今後の課題

- ①基本的に自分の考えをまとめさせる際に、組み立てメモを全て用いていたため、児童に自由に書かせる場面がなかった。組み立てメモで論理的な文章の型を身に付させた上で、それを活かして自分の文章として書かせる機会を設けると良かった。
- ②話し合い中に、メモをとるのに必死になってしまい基本的な聞く態度が伴っていない児童もいた。相手の目を見て話を聞くといった基本的な「聞く」態度も指導する必要がある。
- ③今回の実践だけでは、話し合いの場面設定が少なかった。数回行っただけでは、話し合いの仕方を児童に身に付けるのは難しいため、何度も繰り返し話し合いの場を設ける必要があると感じた。
- ④児童が自分の意見を話す際、「話す」というより自分の書いた意見を「読む」というようになってしまっている児童もいた。みんなに意見を「話す」ときの態度も指導すると良かった。

## 8 おわりに

私は学習指導力や児童への指導力の向上を目指して本教職大学院に入学をした。入学して、経験豊富な先生方より素晴らしい理論を学び、連携協力校においてそれを実践させていただいた。

これらの経験から、入学前より指導力を大きく向上することができたのではないかと考える。教員となったときに活かすことができるように精一杯努めたい。

また、研究テーマを「伝え合う力を高める授業づくり一國語科における『習得』・『活用』を通して」と設定し、様々な手だてを工夫してきた。効果的なものもあれば、課題が残るものもあった。「伝え合う力」を高めることは、これからもずっと必要な課題であると考える。そのため、これで実践を終わるのではなく、教員となっても研究し続けたい。

### 注記

- (1) 文部科学省、「平成19年度文部科学白書 第2部 第2章 初等中等教育の一層の充実のために 第1節『確かな学力』と『豊かな心』を育成し、『生きる力』をはぐくむ学校教育を目指して」
- (2) 寺崎 千秋「小学校新学習指導要領の展開総則編」, 明治図書, 2008, pp83
- (3) 大熊 徹「小学校国語科『活用型』学習の授業モデル」, 明治図書, 2009, pp15

### 主な参考文献

- (1) 文部科学省『小学校学習指導要領 国語編』, 東洋館出版, 2008
- (2) 大熊 徹『小学校国語科 「活用型」学習の授業モデル』, 明治図書, 2009
- (3) 大熊 徹『国語科 学習指導過程づくり—どう発想を転換するか 習得と活用をリンクするヒント』, 明治図書, 2012
- (4) 安彦 忠彦, 寺井 正憲, 吉田 裕久『小学校 学習指導要領の解説と展開 国語編』, 教育出版, 2008
- (5) 吉永 幸司『活用力をつける国語科授業の改善』, 明治図書, 2009
- (6) 文部科学省『小学校学習指導要領 総則』, 2008
- (7) 佐藤 洋一『国語科 「習得・活用型学力」の開発と授業モデル 4 伝記・ノンフィクション編』, 明治図書, 2011
- (8) 寺崎 千秋『小学校 新学習指導要領の展開 総則編』, 明治図書, 2008

### 付記

教職大学院の2年間で、サポーター活動、特別課題実習、教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、多様なフィールド実習などの多くの小学校や職場において実習をさせていただきました。また、その際には、多くの先生方にお忙しい中、多大なご助言やご支援をいただきました。心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、学校サポーター活動や教師力向上実習Ⅰ・Ⅱで継続的にご指導をしていただき、論文作成や日頃の悩みなどの相談にも熱心にに応じてくださり、温かくご指導して下さった萩原孝先生、教師力向上実習Ⅰ・Ⅱでご指導して下さった山田久義先生、教師力向上実習Ⅲでご指導して下さった大矢忠史先生に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。